

2学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

2学年通信 44号 通算 108号

2016.8.19 (金) 発行

2016/8/18

好きなことを書いてみようと思ふII

文責 横山

始業式、岸校長先生はパソコンを使ってプレゼンテーションして下さいました。聴覚だけでなく視覚情報もあると、理解が深まり、強く記憶に刻まれるように思います。一般的に、学びは「五感をすべて使う」と効果的だと言われます。五感とは、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚の5つです。たとえば「音読」は声に出すことで聴覚も刺激します。英語や漢文など語学の授業で発声するのは意味があるのです。また理科で「実験」を行います。これは五感をフルに活用するという点において最上級の学びと考えます。私は、数学の授業で「立体モデル」を活用しますが、多面的に見ることや手にとって触ってみることで、興味関心が高まると期待してのことです。最新の4Dシアターは「体感できる映画館」になりましたし、ディズニーランドも五感を大いに刺激する乗り物でいっぱいです。今後は「確実かつ正確に他者に伝えたい」とき、五感をどのように刺激するかが大きなテーマとなるはず。例えば、数学のテストで計算ミスすると「横山が現れてオナラの音と匂いがする」とか、英語の発音が上手だと「コージロー先生が壁ドン！してくれる」とかであれば、今の技術で十分可能だと思うのです。また逆に、自らが「確実かつ正確に身につけたい」とき、つまり生徒諸君が「確実かつ正確に学びたい」場合に適用できると思うのです。ここで、その反例となる「よくいる米興生」の例を紹介します。彼は（実はこのタイプは男子に多い）1日5時間は家庭学習します。しかし、実はその学びは両親から無言のうちに（有言の場合も多い）強要されている学びです。ですから、彼は家にいるときは、部屋で勉強しないと怒られるので勉強した「フリ」をします。本人にも向学心や進学志望がありますから「フリ」というのは言い過ぎなのですが、とにかく机に向かって学習姿勢を作ることだけに精一杯になってしまうのです。結果、その学びが「ただの書き写し」のような空虚な作業となっている、という例です。極端な例と思うかもしれませんが、そのような傾向をもつ米興生は少なからずいるのです。米興生としては、まったく勉強しないのは論外です。このしないタイプは「誰かがいつかワタシのやる気スイッチを押してくれる」とか「何で友人関係（とか恋愛関係）がうまくいかないのかな」とか自己愛に満ちた空想（妄想）に浸る、または思考することが面倒なので、取りあえず「ポケモンGOやネットゲームにハマり現実逃避する」のいずれかあることが多いようです。心に一撃のあった人は、大変でしょうが今日から自分を変えていくことです。また、自分の学びは「フリ」かもしれないと感じた人は、無意識から意識的に、無我から有我になるように常に努めることです。これは「しないタイプ」より軽症なのですぐ更生できます。さて結びです。「しない」や「フリ」でも無いのに成果の出ないアタナは「意識して五感を使うこと」を心がけてみましょう。声に出す・手を使う・歩きながら・紙を嗅ぎ味わう？etc. 単に書き覚えるだけでなく、学びにおいて何か1つ感覚を加えてみましょう。きっと効果あると思います。ps 右は岸校長先生のスライドです。熟読しましょう！

Fixed Mindset(固定、硬直思考)
才能や人格は天性 変わらない
 自分をよく見せたい 失敗を恐らからず挑戦を避ける
 他人の成功に脅威を感じる 批判を無視する

Growth Mindset (成長、しなやか思考)
成長過程にある 才能は伸びる
 学びたいという欲求 批判から学び、努力する
失敗を恐れず挑戦する → 能力や人格向上

**自分の能力は
磨けば伸びる**

受け継がれる上杉鷹山の思い

藩財政窮乏とともに衰える



元禄十年(1697) 上杉綱憲公
 矢尾振三郎が建てた聖堂を指すものとし、
 「**忠誠殿**」(かみんてい)と命名
 傍らに**講堂(学問所)**建立

鷹山公が藩主になった当時の藩事情

○上杉120万石 → 米沢15(30)万石
 藩士数 藩内人口の23%(リストラなし)
 他藩は5~7%

○藩財政の逼迫・窮乏:
 備財16万両(約160億円)
 藩民の窮状: 田畑の荒廃、重い年貢、
 相次ぐ凶凶
 前藩主上杉重定公 幕府に藩返上も考えた

改革の断行

大徳約令 江戸藩邸費用 1500両→209両
 江戸藩邸女中 50人 → 9人
 自ら一汁一菜 袴の着用

武士も奥勤に従事

殖産興業 絹織物、漆器、ろうそく、ペニバナ
 飢饉に備え「かてもの(糧物)」(救済食)
 鯉の養殖等

天明の大飢饉(1782)

他国では多くの餓死者 米沢藩では餓死者なし
 しかし、改革はとん挫
 ↓
 鷹山公隠居
 その後5年で備財が30万両増加
 ↓
 鷹山公の思いの継承と改革の継続
 ↓
 鷹山公没後1年で備財を完済

鷹山公略年表	
1751	九州福岡唐江戸屋敷で誕生
1760	10歳で上杉重定公の養子 米沢藩江戸藩邸へ
1767	重定公隠居 17歳で家督継承に
1769	19歳で御入部(江戸から初めて米沢へ) 藩政改革に着手
1776	26歳で學館再興 興讓館
1782	天明の大飢饉(改革の挫折)
1785	35歳 家督を継ぐ 治広公米沢藩主に 伝国の辞 鷹山公の精神が受け継がれる
1822	逝去
1823	米沢藩の復讐、完了

白くなった灰 → 雪に閉ざされた米沢
息を吹き込むと、かすかに火種
懸命に吹くと再び赤い炎

↓

火種(志)を持ち続け広げれば改革は成る

なせば成る なさねばならぬ何事も
成らぬは 人のなさぬなりけり

Growth Mindset

興讓館精神を體現した偉人(その2)



伊東忠太博士

日本建築学の大家
建築ということばを
初めて使用
文化勲章受章
文化功労者

米沢市初の名誉市民

1867(明治2) - 1954(昭和29)



改革には人材が必要

高い志と高潔な精神をもつ藩士育成
(火種) (譲の精神)

↓

藩校 興讓館

君主は民の父母たるべき

伝国の辞

- 一、国家は先祖より子孫へ伝え候国家にして我私すべき物にはこれ無く候
- 一、人民は国家に属したる人民にして我私すべき物にはこれ無く候
- 一、国家人民の為に立たる君にて君の為に立たる国家人民にはこれ無く候

右三条御遺志奉覽勸諭事 天明五年二月七日
治憲 花柳 治広殿 机前

米沢有為会

現在の米沢有為会活動(公益法人活動)

- 東京、仙台興讓館祭の運営
- 育英奨学会賞与
- 我妻榮記念館運営
- 表彰、文化講演会 等

設立は明治22年
郷土愛を土台に、相互の親睦と切磋琢磨
實業出身の有為な人材育成支援
伊東忠太博士は設立発起人の中心的存在
当時、東北第一番(東北教育界の巨魁)に等し
22歳の若さで高い志

9月19日 創立130周年記念式典

式典テーマ

興讓の精神を受け継ぎ、
新たな価値創造を目指して

創造と挑戦

「興讓館」の由来と「学則」制定

細井平洲

「興讓館」と命名

- ・懐み愛く謙遜に学ぶ。
- ・正しいことには勇躍に従い、常に穏やかに先生に従う。
- ・学を修めども傲慢にならない。
- ・自分の考えから嘘と不正を除き、徳のある人を学本として自分を振り廻る
- ・気を引き締めて先生に敬し、心から先生を敬う。
- ・朝早くから夜遅くまで、作法に則り生活し、服装を整える。
- ・日々、心してこのように学ぶべき

「学則」(学ぶ者の心得)制定

興讓の精神

- 1 自他の生命を尊重する精神
- 2 己を磨き、誠を尽くす精神
- 3 世のために尽くす精神

わがらが心
あま興讓館の
冬くさんこれぞ
世のために
わがらが誠
心をあがめ
入るもの

現在の我が国の財政状況



鷹山公時代と同様の危機的状況

大膽な改革の必要性

日本の未来はみなさんにかかっている

次代を切り拓くのは若者の力

若き鷹山公のように
高い志を持って己を磨き

リーダーとして
日本や世界を牽引してほしい